あまやさいとは

「あまやさい」とは…

市内で生産された野菜・果物などの農作物※を

あまのやさいとして『ブランド化』したもの

（※穀物を除く）

都市農業の強みを活かした生産・流通



◆安心・安全

生産者の“顔”がみえる農産物（市内69戸の農家で生産）

◆新鮮

生産地と消費地が近い（市内20か所で販売）

◆高付加価値

販売店舗や飲食店のニーズに合わせた少量多品目生産
軟弱野菜や完熟野菜・果物が消費者にダイレクトに届けられる

◆気軽に購入可

市内直売所、スーパーを中心に、市外でも取扱あり
（食料品量販チェーン店、百貨店食料品売場　など）

あまやさい販売機の設置（令和５年３月から市内３か所に設置）

設置目的

◆あまやさいの普及・周知

市内産野菜「あまやさい」をもっと知ってもらう『**広告塔**』としての役割に！

◆あまやさいの消費拡大

当日の朝採れ野菜を気軽に購入でき、地産地消の促進につながる！



設置場所

農地が少なく「あまやさい」を購入する機会が少ない南部地域に販売機を設置

立花南生涯学習プラザ

◆常温販売機（２基・18扉）
◆農福連携により運営
◆葉物中心、農家から出荷されたものを販売
◆搬入頻度は週２回程度

大庄北・中央北生涯学習プラザ

◆常温販売機（２基・18扉）
◆農家による直接運営
◆主力であるトマトが中心、その他葉物など出荷できるものを販売
◆搬入頻度は週２回以上

あまやさい販売機の評価と課題

評価

◆「アマで野菜?!」という意外性
本市の“都市農業”の周知啓発、地場野菜の地産地消に寄与

◆安全、安心で新鮮な野菜が気軽に買える
※参考：R07売上実績　６基合計 615千円

◆農福連携の新しいカタチ
本市の農業発展とともに障害者の自信や生きがい支援を創出し
社会参画を実現

課題

◆商品価値の維持（特に夏季や葉物）
販売ロスを避けるため、入荷・品目が限定的になりがち
→客足が遠のき、さらに販売が減少する“悪循環”に

◆集客が限定的
施設の開庁時間内・施設の利用者にしか販売できない
広く一般の目につきにくい





あまやさい常温販売機（庫内）

冷蔵あまやさい販売機の導入

設置目的

◆**あまやさいの地産地消の更なる促進**
販売ロスの低減・入荷回数や品目の増加

◆**広告塔としての機能強化**
市内外多くの方が利用する鉄道駅周辺に設置し、認知度向上を図る

◆**農業を通じた地域活性化・地域振興の貢献**



冷蔵あまやさい販売機の概要

◆**冷風送風機能付き（21扉）**
夏季・葉物の鮮度維持機能の強化

◆**運営等**
運営主体：市内農家等
搬入頻度：週３回程度（農家による直接搬入）
価格帯：100円～300円程度（既存設置と同価格帯）
その他：売り上げは運営主体に帰属する。
（設置費用やランニングコストは農政課負担）



冷蔵あまやさい販売機（AI作成イメージ）

冷蔵あまやさい販売機の設置場所



JR尼崎駅（あまがさき観光案内コーナー内）

◆住所
尼崎市潮江1-1-1（西改札南側）
◆設置日
令和8年11月26日
12月販売開始予定（入荷状況等により前後します）
◆利用時間
平日・土日祝　9時～17時

阪神尼崎駅（あまがさき観光案内所内）

◆住所
尼崎市神田中通1-4（中央公園内）
◆設置日
令和8年11月26日
12月販売開始予定（入荷状況等により前後します）
◆利用時間
平日・土日祝　9時～17時



